

推薦図書

『病魔という悪の物語 -- チフスのメアリー』

金森修著

ちくまプリマー新書

推薦教員

共通領域部

高野 泰 准教授

新型コロナウイルス感染症が社会に様々な影響を与えています。大学も例外ではなく、みなさんもリモート授業で苦労したかも知れません。そんな現在、注目を集めているのが、今回取り上げる『病魔という悪の物語』です。副題に「チフスのメアリー」とありますが、それは20世紀初めのアメリカでチフス菌を周囲に伝染させたとして著名になったメアリー・マローンを指す言葉です。

彼女は無症状でありながらチフス菌を持つ「健康保菌者」として初めてアメリカ社会で認知されたために、二十年以上にわたって隔離されたのでした。著者である故金森氏がこの本を、終身におよぶ隔離の妥当性の是非への問いとメアリーの苦難への思いを馳せることを望んで書いたと思われるのは、「はじめに」と「おわりに」を読むと理解されると思います。そして、今この本をお薦めする理由は、現在進行中のコロナ禍において同じようなことが起きないとも限らないからです。

なぜ？と思われるかも知れませんが、チフス菌と新型コロナウイルスの違いを別にすれば、次の二点は現在の状況とよく似ているからです。

①チフス菌は既に発見され、また予防のためのワクチンも開発されていました(1909年には陸軍がアメリカで初めて使用)。しかし、今日的な抗菌剤による治療法は、まだ抗生物質が発見される前(1928年のペニシリン発見が最初)であったため、確立されてはいませんでした。

②公衆衛生学者シェイピンを説明したところで言及されていますが、チフス菌の感染の大きな要因である飲用水について、アメリカでの浄水施設の整備は当時まさに進行中でした。そして、メアリーの事件はまだその予防効果が十分に現れる前のことでした。

この文章を執筆している現在、①についてコロナ感染症に対するワクチンは開発途中です。一方、治療薬についてはいくつか候補はありますが、まだ何が有効なのかははっきりと見極められるところには進んでいません。メアリーの時と同様に治療法が確立しているとは言い難い状況です。また②についても、現在はマスクの着用や手洗いの励行が推奨されているものの、コロナ・ウィルスの感染を防ぐ手立てがはっきり分かっている、それによって感染の拡大を防いでいる訳ではありません。これも腸チフスの時と似た状況です。

この二点を踏まえると、感染症の種類は違いますが、メアリーの時代のアメリカ人とコロナ禍のわれわれとは、同じような場所に立っていると思えてくるのではないのでしょうか。はっきりとした脅威としての病いは目の前にある。しかし、その病いから逃れる術、病いに罹ったときに治療する術はまだ不確実である。これらが、百年ほど前にチフスに対峙したアメリカ人と現在コロナと向かい合っているわれわれとに、共通してあるのです。そこで、現在のわれわれが新たなメアリーを産み出さないために、この本は役に立つと思うのです。

～ここからは少し専門的な話です～

背景として当時のアメリカ社会は「革新主義」という名の社会の改革が、さまざまな分野で進行していました。②の浄水施設の整備もその一環ですが、公衆衛生にかかわるものだけでなく、食品の品質管理や健康増進(シリアルはこの時期発明されました)から売春禁止や禁酒まで多岐に渡りました。そこでは、問題とされた事柄がときに人種や民族と結び付けて議論されることもありました。金森氏はメアリーについて特に詳しく触れていませんが、中国系移民の「小僧っ子ジン」に触れただけにそうした背景を読み取ることができるでしょう。

この点について研究者たちは次第に、この革新主義が単純に社会を良くするだけではなく、同時に様々な問題も抱えていたことに注目するようになります。著者の金森氏が「多くを負っている」と述べたリーヴィットもそうした研究者の一人であったと言っても良いでしょう。そこで、メアリーを長期間隔離収容した公衆衛生の権力に対して、人権の不当な制限ではないか、などといった批判的なまなざしが向けられるようになるのです。また今年が女性参政権を認める合衆国憲法修正第 19 条が批准されて百周年になることに事寄せるなら、女性の社会的立場の弱さも、その一因にあったと見ることもできるでしょう。

～専門的な話、ここまで～

金森氏は「はじめに」で、「簡単に善悪の単純な二分法で人間社会を切り分けようとする、物の見方」を問題にしましたが、現在のコロナ禍において「マスク警察」などが現れたりコロナに感染した者が感染したことを理由に非難されたりすることを目の当たりにすると、この問題がいまここで問われていることが分かるでしょう。

ところで、この文章の前半で、「メアリーを産み出さないため」と書きました。それは、メアリーの時とよく似た状況下でわれわれは、コロナ・ウィルスに感染した「誰か」をメアリーのような目に遭わせるかも知れないということで、金森氏の意図も本来はそこにあったと思うのですが、見方をというより立場をちょっと変えると、その誰かはあなたかも知れない、ということでもあるのです。

まさに、様々な事柄が未知であり不確定であるがゆえに、メアリー自身が自分が健康保菌者であったことを認められなかったように、ときにわれわれ自身が本当は事実であることを認められずに惑ってしまうことも起こり得るのです。それによって自分が感染者になったときのことを想像しながらこの本を読むとき、一段とメアリーに対する理解も深まると思います。



4階 書棚 15番

請求記号 493.84||Ka 45 にあります。

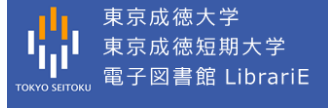
電子図書館 Librari E (ライブラリエ) をご利用ください！



今年度7月より、電子図書館サービス LibrariE がご利用できるようになりました。
インターネットの環境が整っていれば、いつでもどこでも、スマートフォン・タブレット・パソコンから
小説・就職活動本・ガイドブック・料理レシピなど様々なジャンルの電子書籍を読むことができます。
以下の URL にアクセスするか、本学図書館ホームページから右のバナーをクリックしてください。

<https://www.d-library.jp/tsu/>

「ネットで借りて、ネットで返す」電子図書館 LibrariE を是非お気軽にご利用ください。



【利用方法】

- *Office365 のメールアドレス (学籍番号@tsu.ac.jp/学籍番号@tsc.ac.jp) にお送りした ID とパスワードを使ってログインをしてください。ご不明な方は図書館までお問い合わせください。
- *電子書籍の「借りる」ボタンで、14日間、5冊まで利用することができます。延長も1回まで可能です。
- *他の利用者が貸出中の電子書籍は、「予約」ボタンで5冊まで予約しておくことができます。取り置き期間は3日間です。
- *貸出せずに「試し読み」ボタンで最初の数ページを確認することもできます。
- *貸出期限になると自動的に返却されます。期限より前に返却する場合は「マイページ」から「返す」ボタンを押します。

2019 年度図書館長賞受賞者発表！



翠樟会（大学後援会）活動の一環として、図書館の活用度が高く、学修等を中心において他の学生の模範となるような学生を表彰するために、昨年度より「Best Student Award 図書館長賞」が創設され、学部生・大学院生の全学年の中から、図書館の貸出冊数が多く、かつ学力や教養等の向上に努めたと認められる以下の学生が、各学科から1名ずつ選出されました。
受賞された皆さん、おめでとうございます。

2019 年度 受賞者一覧

所属学部学科		学年（受賞時）	氏名	所属キャンパス
人文学部	日本伝統文化学科	4年（3年）	桑野 峻輔 さん	八千代キャンパス
	国際言語文化学科	4年（3年）	ヘラット・ムディヤンセラゲ・スムドウ・ワットサラ・ヘラット さん	八千代キャンパス
国際学部	国際学科	該当者なし		
応用心理学部	福祉心理学科	4年（3年）	根本 佳苗 さん	八千代キャンパス
	臨床心理学科	4年（3年）	川村 朋輝 さん	十条台キャンパス
	健康・スポーツ心理学科	2年（1年）	高橋 和奏 さん	八千代キャンパス
子ども学部	子ども学科	卒業（4年）	政木 遥南 さん	十条台キャンパス
経営学部	経営学科	4年（3年）	板東 孝和 さん	十条台キャンパス
大学院	心理学研究科	修了（修士2年）	上村 依子 さん	十条台キャンパス

※翠樟会活動の一環のため、現在のところ短期大学生は対象外となっております。

図書館のご利用について

新型コロナウイルス感染拡大防止のため、状況により開館スケジュールや利用方法は随時変更されております。
ご利用に際しては、図書館ホームページ掲載の開館カレンダー及びお知らせをご確認いただき、ご不明な点がございましたら、図書館までお問い合わせください。なお、来館に際しては、感染防止対策として以下の点にご注意願います。

- *咳、発熱、倦怠感などの風邪のような症状のある方は来館をお控えください。
- *必ずマスクを着用し、入口設置の消毒用アルコールでの手指消毒をお願いいたします。
- *館内では会話をご遠慮いただき、他の利用者と距離を確保するようにしてください。

長期にわたりご不便をおかけしておりますが、ご理解のほどお願いいたします。

